

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

子供

対象学年・  
取り扱った教科等小学校 6 年生  
未来市民教育 (総合的な学習の時間)

時数等

8 時間

目標・人権教育のねらい

- ・子どもの権利条約についての学習を通じて、一人ひとりがたいせつにされ、安心安全な学級・学校をつくっていくとともに、社会のさまざまな人権課題の解決に向け、主体的に行動する意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・子どもの権利条約についての知識・理解を深め、子どもに関わる人権課題について調べる。
- ・実際に子どもの人権を守るために働いている東大阪市の子ども見守り課の方にゲストティーチャーとして来ていただき、講義と質疑によって、子どもの権利についてさらに理解を深める。
- ・上記の聞き取り学習を行った子どもたちが、聞き取った内容を学年全体にプレゼンし、子どもの人権について、自分には何ができるかを学年全体で考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・子どもたちが自ら課題設定することで、主体的に、個別的な人権課題についての理解を深められるようにしたこと。
  - ・社会の課題解消のために取り組んでいる人たちからグループごとに聞き取り学習を実施することで、まわりの子どもたちに伝えようとする責任感と課題解決のために何かをしようという行動力を養えるようにしたこと。
- (地域や関係機関との連携)
- ・子どもの権利を守っている人が身近にいることを実感するため、子どもたちにとって身近な人との出あいを設定したこと。
  - ・虐待やネグレクト、ヤングケアラーの問題に関わっている人たちから聞き取り学習を行うとともに、自分や友だちのくらしをみつめることで、聞き取った内容と自分たちの友だちのくらしを重ね、自分たちにかかわる課題だと子どもたちが認識し、交流できるようにしたこと。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

社会科にて、地域を支えている人たちについて学習をした。その際に、未来市民教育（総合的な学習の時間）と重ねて取組みを進め、さまざまな人との出会いから学びを深めた。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

女性

対象学年・  
取り扱った教科等小学校5年生  
未来市民教育(総合的な学習の時間)

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 保護者の仕事の聞き取りを通して、ジェンダーの観点から仕事について考える。
- ・ 就労するうえでの男女の格差を考え、社会の不合理に気づき、自分たちに何ができるか考える。

実施した内容

- ・ 子どもたち一人ひとりが自分の保護者の仕事に関することを聞き取り、保護者の思いや経験を知り、今の自分の生活につなげて考え、自分の行動をみつめなおす。
- ・ 就労のための募集チラシから男女の賃金の差などを考え、社会の不合理に気づき、おかしいと言える力をつける。

工夫した点

(指導上の工夫) (地域や関係機関との連携)

- ・ 保護者の思いや経験が子どもたちに伝わるよう、5年生の子どもたちのすべての保護者から仕事の経験を教職員自身が聞き取り、把握したうえで、学習を進めたこと。
- ・ 子どもたちの仕事におけるジェンダー観をみつめなおせるよう、ダンプカーを使って、土や砂を運ぶ仕事をしている保護者(女性)の経験やその子どもの思いが学年の仲間に伝わるようにしたこと。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・ 社会科の第一次、第二次、第三次産業と保護者の仕事の内容を関連させて取り組んだ。

## 事業成果

- ・ 知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・ 価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・ 技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等

小学校 1、6 年生  
生活科、未来市民教育

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害のある人との肯定的、豊かな出会いをする。【1年】
- ・ 障害のある仲間の保護者への聞き取り学習を通して、生きることの意義やともに育つ集団について考える。【6年】
- ・ 子どもたち一人ひとりが自分の夢・生き方を考えることから、仲間の進路について自分のこととして考える。【6年】

実施した内容

- ・ 地域の障害者作業所に行き、そこで働いている人たちと一緒に、紙すき体験を行ったり、ポッチャを行ったりして、互いに知り合う。【1年】
- ・ 障害のある仲間の保護者 2 人にゲストティーチャーとして、学校に来てもらい、聞き取り学習を実施する。【6年】
- ・ 子どもたち一人ひとりが自分史（マイストーリー）を作成し、自分の過去・現在・未来（将来・夢）について考えを共有し、仲間の将来や夢を互いにたいせつにしていこうということから社会の課題に気づく。【6年】

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ 子どもたちが自ら課題を設定することで、主体的に、個別的な人権課題についての理解を深められるようにしたこと。【6年】
- ・ 自分の夢・生き方をたいせつにするため取り組んだ自分史（マイストーリー）の学習と重ねて今回の学習を進めたことで、仲間の夢・生き方もたいせつにしようとする思いを喚起し、仲間の生きづらさに気づき、それを生み出している社会の不合理に気づけるようにしたこと。【6年】

(地域や関係機関との連携)

- ・ 障害者作業所との交流だけでなく、そこで働いている保護者をもつ子どもが自分の知っていることをクラスの友だちに語ることで、障害のある人をより身近に感じられるようにしたこと。【1年】
- ・ 6年間ともに学び、ともに育ってきた障害のある仲間の保護者から聞き取りを実施することで、障害のある仲間と出あい直し、ともに生きていく仲間のことをより深く知れるようにしたこと。【6年】

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・国語科の話す・聞くにおいて、話し手の考えと自分の考えを比べることや立場を明確にして話し合う活動などつなげて取り組んだ。
- ・社会科において、基本的人権及び障害者差別解消法について学びを深めた。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

小学校6年生  
未来市民教育(総合的な学習の時間)

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 地域の人との出会いを通して社会で起きている部落差別について知る。
- ・ 自らの立場性を自覚し、あらゆる不合理に気づき、課題を解決していくための行動力を身につける。
- ・ 仲間の生活の実態や心の痛みを知り、共感し、仲間と深くつながろうとする。

実施した内容

- ・ 自分史を作成し、人生で一番よかったことやつらかったことを自分自身で見つめ直し、友だちと共有する。
- ・ 法務局の人権啓発ビデオ「同和問題～未来に向けて～」などを視聴したり、同和問題について調べたりするなかで、同和問題について正しい知識を持つ。
- ・ 部落差別解消のために地域で活動している方から聞き取り学習を実施する。
- ・ 同和問題について、聞き取りをしたことを学年に伝え、自分たちにできる行動について考える。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ 子どもたちが自ら課題設定することで、主体的に、個別的な人権課題についての理解を深められるようにしたこと。
- ・ 子どもたち一人ひとりが自分の経験したよかったことやつらかったことを見つめ、友だちと共有することで、仲間のしんどさに共感できるようにしたこと。
- ・ 法務局が作成している動画を視聴することで、国や自治体も同じように部落差別をなくそうとしていることを知り、自分たちに何ができるかを考えられるようにしたこと。

(地域や関係機関との連携)

- ・ 地域の身近な人から聞き取りをすることで、自分に直接関係がある課題であることを知り、立場性の自覚につなげられるようにしたこと。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・国語科の話す・聞くにおいて、話し手の考えと自分の考えを比べることや立場を明確にして話し合う活動などつなげて取り組んだ。
- ・社会科において、人権を守るための法律と重ねて学びを深めた。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・  
取り扱った教科等

小学校6年生  
未来市民教育(総合的な学習の時間)

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌ民族の歴史やくらし、文化を知る。
- ・現在のアイヌ民族の方の思いを知る。
- ・アイヌ民族への偏見や差別の現実を知る。

実施した内容

- ・アイヌ民族の方の講演動画を視聴し、アイヌ民族の歴史やくらし、思いや願いを知る。
- ・地域で暮らす北海道登別出身の方から聞き取りをし、アイヌ民族への偏見について知り、自分たちの身近な人権課題とつなげてアイヌ民族に対する偏見や差別について考える。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・子どもたちが自ら課題設定することで、主体的に、個別的な人権課題についての理解を深められるようにしたこと。
- ・アイヌ民族の歴史やくらしを理解しやすいよう、動画を活用し、視覚情報を積極的に取り入れたこと。
- ・子どもたちが調べたアイヌ語から、北海道の地名を紹介し、アイヌ民族の文化が今の生活につながっていることを感じられるようにしたこと。

(地域や関係機関との連携)

- ・地域の北海道登別出身の方が見聞きした偏見や差別について直接聞き取りを行ったこと。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・国語科の話す・聞くにおいて、話し手の考えと自分の考えを比べることや立場を明確にして話し合う活動などつなげて取り組んだ。
- ・社会科において、人権を守るための法律と重ねて学びを深めた。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

小学校6年生  
未来市民教育(総合的な学習の時間)

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・外国にルーツがある友だちの思いや願いを知り、自分の立場性を自覚し、仲間と深くつながる。
- ・外国籍の人や外国にルーツがある人の聞き取りから、社会の偏見や差別に気づき、自分たちに何ができるかを考え、行動する。

実施した内容

- ・ペンイの会(韓国・朝鮮にルーツのある子どもたちの母国語学級)、朋友(中国にルーツのある子どもたちの母国語学級)、ワールド(ベトナム、フィリピン、ブラジルにルーツがある子どもたちの母国語学級)の取り組みがあった翌朝にその子どもたちが発表する時間を設けて、感想交流をした。
- ・ベトナムから渡日してきて、日本で働いている保護者から聞き取りを行い、学年全体で聞き取った内容を共有し、自分たちに何ができるかを考えた。
- ・韓国・朝鮮ルーツの本校の卒業生から聞き取りをして、今の自分をみつめ、これからの自分の生き方を考えた。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・子どもたちが自ら課題を設定することで、主体的に、個別的な人権課題についての理解を深められるようにしたこと。
- ・立場性を明確にしている仲間の思いを受けとめ、自分の立場性を考えられるようにしたこと。

(地域や関係機関との連携)

- ・外国籍の保護者が日本で働くうえでの偏見や差別を知り、仲間の心の痛みに共感し、自分たちが人権課題に対して、何ができるか考えたこと。
- ・年齢が近い先輩の話聞くことで、近い将来のことを考え、中学校での目標をもてるようにしたこと。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・国語科の話す・聞くにおいて、話し手の考えと自分の考えを比べることや立場を明確にして話し合う活動などつなげて取り組んだ。
- ・社会科において、人権を守るための法律と重ねて学びを深めた。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

小学校 6 年生  
未来市民教育 (総合的な学習の時間)

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネット上での人権侵害の事実を知り、特にSNS等を使った情報発信などに関して、どういったことに気をつければよいかを考える。
- ・インターネットを使って、さまざまな人権課題を調べ、ネット上にある偏見や差別について知り、どのようになくせばいいのかを考える。

実施した内容

- ・SNS上でのトラブルの原因になる「情報の伝え方、曖昧さ」について身近な体験談を思い出しながら考える。
- ・同和問題を中心にネット上の偏見や差別の実態について、地域の差別をなくすために活動している方から聞き取りを実施する。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・子どもたちが自ら課題を設定することで、主体的に、個別的な人権課題についての理解を深められるようにした。
- ・子どもたちにとって身近なSNS等の事例をもとに学習を進め、インターネットを利用する当事者として考えることを大切に指導したこと。

(地域や関係機関との連携)

- ・ネット上で起きている偏見や差別が身近にあることを知るために、地域で活動している人たちから聞き取りを行ったこと。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・国語科の話す・聞くにおいて、話し手の考えと自分の考えを比べることや立場を明確にして話し合う活動などをつなげて取り組んだ。
- ・社会科において、人権を守るための法律と重ねて学びを深めた。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市等名

大阪府

学校名

東大阪市立長瀬北小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・  
取り扱った教科等

小学校 1、2 年生  
生活科

時数等

8時間

目標・人権教育のねらい

- ・さまざまな男女のきめつけについて考え、一人ひとりが多様であることを知り、自分たちの偏った考え方をみつめなおす。
- ・子どもたち一人ひとりに「もちあじ」があることを知り、自分の「もちあじ」と他者の「もちあじ」が同じようにたいせつであることを理解する。

実施した内容

- ・傘の模様やランドセルの色など男女のきめつけのおかしさに気づき、一人ひとりの多様性を受け入れられるようにした。
- ・絵本「ふたりのお母さん」「ママのうちとパパのうち」などを活用し、すべての子どもが自分の思ったことを書き、共有した。
- ・子どもたち一人ひとりが得意なこと、苦手なこと、自分のよいところ、よくないと思っているところなどをすべて出し合い、「もちあじ」として、互いに認め合い、尊重し合うようにした。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・絵本などを使い、さまざまなおうちの形があることから性の多様性に気づいていくようにした。とりわけ、身体的性別が女性どうしのパートナーの子どもが自分や自分の家族を肯定できるようにしたこと。
  - ・「もちあじ」の学習をすることで、一人ひとりが多様で、すべての人が認め合うことがたいせつであることを理解しやすいようにしたこと。

# 令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・国語科の「比べて伝えよう」において、自分が説明したい文章を書いて、伝えることと関連させて取り組んだ。

## 事業成果

- ・知識的側面：「失敗しても、友だちに笑われたり、からかわれたりすることはない。」  
事業開始時：60.6%⇒事業終了時：65.9%  
【児童の変容の分析】  
ペアやグループ学習を取り入れて、学習を進めている。学級全体で発表するときには、安心して自分の思いを伝えることができているが、否定的な回答率が30%を超えている。グループ交流等で自分の考えを表現することに不安を感じる子どもたちがいるものと思われる。子どもたちは、1度でもいやな思いをすると心に残っている場合が多い。今後、グループのつながりを深められるような取組みを学校全体で進めていく。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」  
事業開始時：65.9%⇒事業終了時：69.2%  
【児童の変容の分析】  
向上はしているが、どのような行動が社会をよくすることになるのか実感をもつようになるまでには至っていない。今後取組みを重ねることで、学校や地域をよくすることができたという実感をもてるよう、キャリア教育と関連づけながら進めていく。
- ・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」  
事業開始時：87.3%⇒事業終了時：85.5%  
【児童の変容の分析】  
全校で3人程度の子どもたちが肯定から否定に変化した。否定的な回答をしている子どもの思いや考えをとらえ、学級ではもちろんのこと、学校や地域の中で、さまざまな人との出会いから思いや願いを聞き取り、互いに支えあってくらししていることのたいせつさを体験的に学ぶ取組みをさらに進めていく。